座談会 クラブに関わる人材の発掘・確保、育成

～「人材」に関わる情報提供とネットワーク化について～

theme 1

総合型クラブ運営において、その活動基盤をより充実させるための人材の活用は、常に大きな課題の一つとなっています。スポーツ指導者の他、法律や財務面をはじめとする一定の専門的能力や経験を有した人材を、どのようにして発掘・確保するのか、また、そういった人材を育成するには何が必要なのかなど、各クラブの抱える問題はさまざまです。そこで今回、人材の育成を含む「クラブに関わる人材の発掘・確保、育成」について、異なる視点を持つ3名の識者の方にお話を伺いました。

対談者

桑田 健秀氏
NPO法人地域総合スポーツクラブ ピボットフット 理事長
SC全国ネットワーク（総合型地域スポーツクラブ全国協議会）幹事長

紙本 諭氏
NPO法人はちきたSC 理事長

飯田 満美子氏
あしがら総合型スポーツクラブ「あすぽ」クラブマネジャー

総合型クラブに関わる人材はどのように発掘しているのか

桑田（敬称略） 人材には、スポーツの指導をする技術スタッフと運営スタッフの2種類があります。指導者については、自分も携りながら、バスケットボール界での人脈を生かして資格を持つ人に声を掛けるなどしていました。運営スタッフに関しても、バスケット仲間である税理士や会計士にヘルプをお願いするなど、身近なつながりを活用していましたね。その後、テニスなど、さまざまな競技へのクラブ運営の広がりとともに、人材の発掘も広げていきましたが、当初はまさに手探りでした。

クラブ事業が発展し始めてからは、学生が就職活動で来ることもありましたが、「人を雇用できる財源規模」を得るのは困難で雇用は難しかったです。クラブにボランティアスタッフは必要ですし、大変ありがたい存在ですが、一方、それだけでは運営できないのも事実。実際に、私が行っている運営に関する業務を引き継げる人材の発掘には苦労しています。

紙本（敬称略） 今年で、私たちのクラブスタッフは8名になりました。私は、サッカーをしていて、体育教師になりサッカー部の顧問になりたいという夢を持っていましたが、大学の授業で見たドイツの地域スポーツクラブの映像

桑田 健秀

に影響を受け、「これを作りたい」と決意したのが、クラブを始めたキッカケです。何の資源もなくゼロからのスタートでした。十分な収入もないためアルバイトをしながら、指導、運営、営業と自分一人でする、そんな期間が5年ほど続きました。その仕事では次第に、地域の方がボランティアで協力してくださるようになり、現在は、雇用面でも新しい人材がいいサイクルで入っています。ありがたいことに、優秀な方々が集まってくれているため、人材の発掘に関しては、あまり苦労はありません。ただ、私自身が正職員となったことで今まで頑張れたという実感があるので、人材の確保という面では、集まった方々を雇用できるよう、さらなる努力が必要だと思っています。

それと、スタッフを迎え入れる際は、クラブの理念を、しっかり伝えなければいけません。我々の場合は、スポーツで八王子を活性化するという理念、それに賛同してくれる人材が基本です。

飯田（敬称略） 私たちの「あすぽ」は、ママ友達数名が半ば勢いで「よしやるぞ！」と立ち上げたようなクラブなので、人材の発掘に雇用を考えるようなことはありませんでした。スタッフも、私を含めて全員が子育て中です。お母さんたちが「行きたい」と思った時にいつでも行けるレッスンとして、平日に日替わりで託児付きのエクササイズを始めたのですが運営は大変でした。その様子を見た会員さんがお手伝いしてくださるようになり、そういった方の中からスタッフになっていただいています。今は主婦とはいえ、幼稚園の先生やイベントを企画されていた方、ホームページ作成ができる方など、もともと社会で活躍されていた方も多く、それぞれに得意分野を持つスタッフが集まっています。大袈裟ですが、子育て中のお母さんの社会復帰の場にもなっています。

紙本 諭

飯田 満美子

指導者の発掘は、育児休暇中のインストラクターに、会員さんと一緒に託児システムを利用していただきレッスンをお願いしたり、会員さんの中で指導経験がある方の日本体育協会公認スポーツリーダー資格取得を支援したりしました。

以前、指導を希望された方にレッスンをお願いしたら「1年間、あすぽのレッスンに参加した上で、会員さんが求めるレッスンを作りたい」と言われ、実際にその後、クラシック音楽を使った独自の体操レッスンを始めてくれた例もあります。普段から会員さんとの会話を大切にすることで、それがクラブの発展につながることもありますね。

桑田 私たちもクラブの会員になっているお子さんを持つ親御さんに、協力をお願いした経験があります。子どもが一生懸命になっていることに、一緒に取り組めると喜んでいただける方もいますし、そこから大人向けの教室の開催につながるなど、いろいろな発展があります。

紙本 会員さんにお手伝いをお願いするのは、利用する側と運営側との境界線をなくし、地域全体で「クラブを作っている」という意識を持っていただけるという利点もあります。これは、地域に密着することで、応援されるクラブになるためにも重要なことです。来ているみなさんが営業というか、お知り合いの方達にクラブの話をしていただき、お友達を連れて来てくださることも大きなお手伝いです。また、時間は掛かりますが、クラブで育った子どもたちが、クラブで学んだことを次世代にも伝えたいと思ってくれる循環ができれば最高ですね。私のクラブでは、幸せなことに、今年、大学に進学したクラブの一期生が、「コーチをさせてほしい」と戻ってきてくれました。会員さんからの人材の発掘に関しては、こういった長い目で見た人材の確保と、地域のみなさんを仲間にするという門戸の広さの二本立てが必要だと思っています。